

## ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

### 修士課程

#### ○到達目標

- (1) 国内外の地域をフィールドとした実践的な教育を体験することによって、多様な環境・遺産の価値評価能力を持ち、環境・遺産デザインの国際ネットワークを支える人材となる能力を身に付ける。
- (2) 環境・遺産の価値を評価・保護・継承するための専門性と将来の遺産となるべき建築・景観・社会システムをデザインする専門性を修得し、環境・遺産マネジメントを支える人材となる能力を身に付ける。
- (3) 人間と環境の関係をふまえたサステナブル・デザインを可能とする安全性・健康性・機能性・快適性を実現する技術を修得し、空間的な調和と時間的な視野を持って環境デザインを支える人材となる能力を身に付ける。
- (4) 上記の各分野における調査・分析・考察・計画・設計・提案等を行うための総合的な研究能力とデザイン能力を身に付ける。これにより、本プログラム修了後には、大学・研究所・博物館等の研究職、建築・造園・都市計画・文化振興・環境政策等の行政職、まちづくり・むらおこし等のプランナー、遺産保護・遺産修復等のマネージャー、建築・造園・景観等のデザイナー、建築・造園等のエンジニア等の幅広い職種において、将来の遺産を創造する環境・遺産デザイナーとして活躍できる人材となることが、最終的な到達目標である。

### 博士後期課程

#### ○到達目標

- (1) 国内外の地域をフィールドとした実践的な教育を体験することによって、多様な環境・遺産の価値評価能力を持ち、環境・遺産デザインの国際ネットワークを支える人材となる高度な能力を身に付ける。
- (2) 環境・遺産の価値を評価・保護・継承するための専門性と将来の遺産となるべき建築・景観・社会システムをデザインする専門性を修得し、環境・遺産マネジメントを支える人材となる高度な能力を身に付ける。
- (3) 人間と環境の関係をふまえたサステナブル・デザインを可能とする安全性・健康性・機能性・快適性を実現する技術を修得し、空間的な調和と時間的な視野を持って環境デザインを支える人材となる高度な能力を身に付ける。
- (4) 上記の各分野における調査・分析・考察・計画・設計・提案等を行うための高度の総合的な研究能力とデザイン能力を身に付ける。これにより、本プログラム修了後には、大学・研究所・博物館等の研究職、建築・造園・都市計画・文化振興・環境政策等の行政職、まちづくり・むらおこし等のプランナー、遺産保護・遺産修復等のマネージャー、建築・造園・景観等のデザイナー、建築・造園等のエンジニア等の幅広い職種において、将来の遺産を創造する環境・遺産デザイナーとして活躍できる人材となる。
- (5) さらに、本プログラム修了後には、国内外において環境・遺産デザイン分野における指

導的役割を果たし、大学や研究所等において新たな人材の育成も担うことができるような、国際的水準の卓越した教育研究能力を持つ環境・遺産デザイナーとなることが、最終的な到達目標である。

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

### ●教育プログラム

#### ◇教育課程の履修方法

##### 【修士課程（30単位以上）】

①コース内共通科目：8単位以上

環境・遺産デザインコースのコース内共通科目のうち、「環境・遺産デザイン特別演習Ⅰ及びⅡ」（各4単位）は必修です。

②講座内科目：6単位以上

学生各自の所属講座で開設される授業科目を6単位以上選択履修する。

③他講座科目：6単位以上

学生各自の所属コースにおいて所属講座以外の講座で開設される授業科目から6単位以上選択履修する。

④自由科目：10単位以上

芸術工学専攻修士課程の授業科目（各コースの特別演習Ⅰ及びⅡを除く。）から選択履修する。ただし、研究指導教員が必要と認める場合には、芸術工学府他専攻、他学府及び芸術工学部の授業科目から6単位まで（うち芸術工学部の科目は4単位まで）まで選択履修することができる。

##### 【博士後期課程（10単位以上）】

①修士課程との共通開設科目：4単位以上

芸術工学専攻の修士課程及び博士後期課程の共通科目として設定されている科目（各コースの特別演習Ⅰ及びⅡを除いた科目）から、4単位以上を修得する。なお、修士課程で単位を修得した科目を再度履修することは原則認めない。

②博士後期課程独自開設科目：6単位以上

学生が指導を受ける教員等により、研究指導を主な目的とする当該科目を6単位以上選択履修する。

#### ◇研究指導体制

①入学時に学生毎に指導教員を定め、必要であれば関連分野から副指導教員を定めます。

②修士論文の研究テーマは、入学前に確認したことを中心に、指導教員及び副指導教員の指導のもとに決定します。

③指導教員及び副指導教員は、研究テーマが一連の研究手順に沿って進行していくように指導し、論文作成を指導します。

④指導教員及び副指導教員は、その学生の理解度、進行度等を学期ごとに評価しながら指導するものとします。1年次終了時点（博士後期課程は1年次及び2年次終了時点）で、研究の進捗状況についての中間報告を義務付けます。

#### ◇修了要件、成績評価基準・評価方法等

##### 【修士課程】

###### ア 修了要件

課程に2年以上在学して、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は作品を提出して、その審査及び最終試験に合格することが必要です。

###### イ 成績評価基準・評価方法

授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価されます。

##### 【博士後期課程】

###### ア 修了要件

課程に3年以上在学して、10単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。

###### イ 成績評価基準・評価方法

授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価されます。

#### アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

本コースは、フィールドワークに基づいた設計演習を中心とする実践的なプログラムを提供することで、環境・遺産としての建築・景観など空間のデザインとともに、その環境・遺産が未来へつながるための仕組みのデザインを遂行する専門性を身につけた、従来の建築学・造園学・文化財保存学・考古学などの枠を超えた総合的な「環境・遺産デザイナー」を養成します。

そのために、空間的、時間的コンテキストの理解を基本とし、とくに遺産理論講座では環境・遺産の価値を発掘し評価できる能力、環境・遺産マネジメント講座ではその価値を保全し活用できる能力、そして環境デザインテクノロジー講座ではその価値を技術面から向上させ創成できる能力の養成を目指した研究教育を行います。

本コースでは、この環境・遺産デザイナーを目指す明確な意志がある学生を求めます。